

第3学年〇組 英語科学習指導案

福岡市立〇〇中学校
 指導者 〇〇 〇〇
 ALT 〇〇〇〇

1 単元 Program 5 Working as a Volunteer

2 指導観

○ 国際化が急速に進展している現代社会において、英語は、様々な分野で幅広く使われており、コミュニケーションの手段として、英語の果たす役割は大きく、その重要性はますます高まっている。これからの国際社会を生きる子どもたちにとって、英語の運用能力を高めることは大切なことである。

日本では、開発途上地域の発展に貢献する活動が政府と民間とによってそれぞれ展開されている。人と人が互いに理解し、協力し合うためには、言葉によるコミュニケーションは不可欠である。このような状況において、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度をいかに育てていくかは英語教育の重要な課題である。

本単元では、国際ボランティア活動を理解し、また、自分が体験したボランティア活動や、困っている人を助けたことなど、身近な活動について発表できることをねらいとしている。自分から考えを発信し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度は、これからの国際社会に生きる生徒にとって不可欠なものといえる。また、異文化相互理解の立場からも、英語を学ぶ意味や、言葉によるコミュニケーションの大切さを理解する意味でも、意義のある単元である。

学習内容としては、使用済み切手に関するボランティア活動の紹介、パプアニューギニアの文化・習慣などの紹介、海外ボランティアの様子が取り上げられている。そこで、ボランティアに興味をもち、自分たちができる身近なボランティア活動への動機づけになることが期待される。

○ 本学級の生徒は、38名(男子20名、女子18名)である。学校での様々な活動に、学級全体で意欲的に取り組む雰囲気がある。アンケート結果によると、約70%の生徒が、英語が「好き」あるいは「どちらか」として好き」と答えている。言語活動別に見ると、「得意」あるいは「どちらか」として得意」と答えた生徒の割合は、「聞く」活動45.7%、「読む」活動68.6%、「書く」活動54.3%、「話す」活動

45.7%である。「聞く」活動と「話す」活動は他と比べると低い値になり、苦手意識がやや強いと考えられる。好きな活動に、半数以上の生徒が、ALTとの授業をあげている。理由には、「自分の英語が通じる」「ALTの話がわかる」という達成感をあげている。ALTとの授業は、苦手意識の強い「聞く」活動と「話す」活動にも生徒が楽しく臨め、効果的であると考えられる。

○ 指導にあたっては、国内外のボランティア活動に目をむけることにより、異文化理解を深め、英語で表現する機会を多くもたせたい。そのためにも、基本文の用法を理解させたい。ここでは、基本文をくり返し口頭練習させ、定着をめざす。次に、身近な自分の体験などを英語で表現する機会をつくりたい。そのために、基本文を使って、自分や友達のことを表現する活動を行う。既習の表現も使用し、この基本文を含むスピーチ作成につなげたい。スピーチを「書く」活動を通して、単語を知りたくなったり、調べたりするなど、単語を覚えたいという動機づけになるように工夫したい。また、スピーチを「聞く」活動を通して、英語を「聞く」ことへの抵抗を減らすことを意図している。さらに、本校にはボランティア部があり、本学級でも日常的にボランティア活動をしている生徒も数名いる。本文読解の際には、様々なボランティアを紹介しながら、その際、本校での取り組みにも触れ、ボランティアへの興味・関心をより高めたい。最後に、自分のボランティア活動についての原稿を作り、スピーチをさせる。間違いをおそれず、英語で自分のことについて表現できたという実感を味わわせたい。

3 目標

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	・既習の表現を使って、積極的に自分の体験や考えを伝えようとしている。
表現の能力	・身近な人やもの、自分の気持ちが伝わるように、話したり、書いたりすることができる。
理解の能力	・本文の内容や友達のスピーチの内容を理解することができる。
言語や文化についての知識・理解	・国内外のボランティア活動の様子について理解するとともに、ボランティア活動への関心を高める。 ・ask, call, make を使った文のしくみを理解している。

4 指導・評価計画 (8時間)

配時	学習活動・内容	指導上の留意点	評価規準 (評価の方法)	評価基準(関心・意欲,表現,理解,言語・文化)		Cと判断される 生徒への手だて		
				A	B			
	自分のボランティア体験 についてスピーチしよ う。							
1	本文全体を聞き、全体の内容をとらえる。 S1の基本文を理解し、それをを用いて表 現活動をする。 ・ask 0 to do	・ask, tellなどの動詞 に注意させ、語順と 文の意味を正確に理 解させる。	関：インタビュー活動に積極 的に参加しようとしてい る。 <様相チェック, プリント分析> 言：ask 0 to doの文のしく みを理解している。 <プリント分析>	・たくさんの友達と積極的に会話しようとしている。	・正確な文を書くことがで きる。	・ほぼ正確な文を書くこと ができる。	・単語や例文を示し、 ヒントを与える。	
1	S1の新出語、本文の内容を理解し、音 読練習をする。	・本文中の新文型の意味 を確認させる	理：ボランティア活動につい て書かれた本文の内容を 理解している。 <プリント分析>	・本文の内容を詳しくとら えることができる。	・本文の内容を大まかにと らえることができる。	・本文の訳例を与え、 その内容をとらえ させる。		
本時 1	S2の基本文を理解し、それをを用いて、 表現活動をする。 ・call 0 C	・活動に積極的に取り組 むサポートをする。	関：活動に意欲的に取り組 んでいる。 <様相チェック> 表：call 0 Cを使って、話し たり、まとまりのある英文 を書くことができる。 <発言チェック, プリント分析>	・たくさんの友達と積極的に会話しようとしている。	・相手に分かるように大き な声で発表できる。正し く基本文を使い、まと まりのある英文を5文以 上書くことができる。	・相手に伝わる声で発表で きる。基本文を使って、 3～4文の英文を書く ことができる。	・単語や例文を示し、 ヒントを与える。	
1	S2の新出語、本文の内容を理解し、音 読練習をする。	・本文中の新文型の意味 を確認させる。	理：ボランティア活動につい て書かれた本文の内容を 理解している。 <プリント分析>	・本文を読み、その内容を 詳しくとらえることが できる。	・本文を読み、その内容を 大まかにとらえること ができる。	・本文の訳例を与え、 その内容をとらえ させる。		
2	S3の基本文を理解し、それをを用いて、 表現活動をする。 ・make 0 C S3の新出語、本文の内容を理解し、音 読練習をする。	・新文型の表現だけにと どまらず、理由など の新しい情報などを 付け加え、自分のこ とを表現させる。	言：make 0 Cの文のしく みを理解している。 <プ rint分析> 理：国際協力について書か れた本文の内容を理解し ている。 <プリント分析>	・正確な文を書くことがで きる。	・本文の内容を詳しくとら えることができる。	・ほぼ正確な文を書くこと ができる。	・本文の内容を大まかにと らえることができる。	・単語や例文を示し、 ヒントを与える。 ・本文の訳例を与え、 その内容をとらえ させる。
2	自分のボランティア体験についての原 稿を作り、スピーチする。 他者評価をする。	・友達にしてもらった親 切なことなどを書か せ、発表することで、 ボランティアの身近 さを実感させる。 ・よりよいスピーチとは 何かを考えさせる。	関：聞き手に、ボランティア に対する自分の考えが伝 わるように工夫してスピー チしようとしている。 <様相チェック> 表：ask 0 to do, call 0 C, make 0 C, 自分の気持ち が伝わるようにスピーチ 原稿を書くことができ る。 <作品分析> 理：友達のボランティアにつ いてのスピーチの内容を 聞き取ることができる。 <プリント分析>	・新文型の表現だけにとどま らず、理由などの新し い情報などを付け加えよう としている。	・自分の体験や気持ちが正 確に伝わるようなスピー チ原稿を書くことが できる。	・自分の体験や気持ちが伝 わるようなスピーチ原 稿を書くことができる。	・スピーチの例を与 え、語を入れかえて 原稿を書かせる。 ・単語や表現の意味を 言い、理解を促す。	

5 本時 平成20年10月1日(水) 第5校時 場所 3年〇組教室

(1) 本時の主眼

- ・コミュニケーション活動に意欲的に取り組む。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・<call + O + C>の表現を用いて、話したり、書いたりすることができる。(表現の能力)

(2) 本時の指導観

前時までに生徒は、<ask + O + todo>の用法を学んでおり、海外医療ボランティアについての内容を理解している。

本時では、<call + O + C>の文型を理解し、実際の場面で使うことができるようになることをねらいとする。まず、<call + O + C>の語順と意味を理解させ、ピクチャーカードやカルタを使って、口頭練習をする。次に、実際に英語で級友やALTと会話をし、それを英文で書く活動を行う。積極的に英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度を育てたい。最後に、基本文を使って、友達や人を紹介する文を書き、発表する。友達の英語を「聞く」ことを通して、意欲・関心を高めたい。

(3) 準備 宿題プリント ピクチャーカード 単語カード(掲示用) カルタ ワークシート

6 過程

学習活動・内容	資料 教具	指導上の留意点	形態	配 時	評価規準 (評価の方法)	評価基準(関心・意欲、表現、理解、言語・文化)		こと判断される生徒 への手だて	
						A	B		
1 あいさつ		・天候、曜日、日付を板書させておく。 ・大きな声であいさつをさせる。 ・英語らしい雰囲気を作る。	一斉	1				・わからない場合は、 聞き取りやすいス ピードで読む。	
2 宿題の確認と復習 ・宿題プリントの答え合わせ ・小テスト		・宿題プリントの答え合わせをし、前時の学 習を想起させる。 ・前時の内容に関する小テストは、聞き取り 問題にし、ALTに問題を読んでもらう。	個人 一斉	10					
3 基本文の導入と本時のめあての確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">callを使って、友達のニックネー ムを紹介できるようになる。</div> ・基本文の意味確認と説明 ・発音練習 ・カルタ		・ALTに例文を読んでもらい、リスニングに よる導入をおこない、意味をとらえさせる。 ・カードを使って、時間をかけずに基本文の 説明と発音練習をする。 ・班の様子を見ながら、活動に積極的に取り 組むサポートをする。	一斉 グル プ	10					
4 コミュニケーション活動 ・インタビュー		・やり方をALTとのデモンストレーションで 示し、数回練習をする。 ・時間制限をし、積極的な活動を促す。	一斉 個人	10	関: 活動に意欲的に取り組んでい る。 <様相チェック>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">・積極的にたくさんの友達と会話しようとしている。</div>			
5 友達や人の紹介文作成・発表		・作文例を示し、作り方を説明する。発表の 仕方も伝えておく。 ・ポイント制にし、楽しみながら発表を集中 して聞かせる。	個人 一斉	15	表: call OC を使って、話したり、 まとまりのある英文を書くこ とができる。 <発言チェック、プリント分析>	・相手に分かるように大きな 声で発表できる。正しく基 本文を使い、まとまりのあ る英文を5文以上書くこ とができる。	・相手に伝わる声で発表でき る。基本文を使って、3~ 4文の英文を書くことが できる。		・単語や例文を示し、 ヒントを与える。
6 本時のまとめ		・口頭で本時の復習をおこなう。	一斉	3					
7 次時の予告とあいさつ		・大きな声であいさつさせる。	一斉	1					

Program 5-2

Aim : call を使って、友達のニックネームを紹介できるようになるう。



Let's interview !

AとBの会話を
友達とやって
みよう！

A: Hello.
B: Hello.
A: My name is **Emi Maeda** (フルネーム).
Everyone calls me **Emi chan**.
Please call me **Emi**.
B: OK, **Emi**. My name is **Salvador**.
Please call me **Sal**.
A: Nice to meet you, **Sal**.
B: Nice to meet you, too.

(相手 : 同性... 1 point 異性...2 points ALT...3 points ゲストの先生... 4 points)

相手の名前	相手のニックネーム	point
Salvador	Sal	2

total

早く終わったら、作文を書いてみよう！

例) I call him Sal.

Name:

class:

NO:

友達の紹介文を書こう!



- <ポイント>
- 必ず call を使う。
 - ～ の内容を必ず入れる。
 - 最低 2 人について、紹介文を書いてみよう。
 - 好きなことやスポーツ以外に書きたいことは、加えてOK!
 - 内容が伝わりやすいように、一文を長すぎないように気をつける。

<まとめ方と作文の例>

だれ	This is my friend, <u>Minori Nagano</u> (名前).....
好きなこと	She likes art.
スポーツ	She plays volleyball.
	(以外に書きたいことがあれば、加えてOK!)
ニックネーム	We call her <u>Minori sensei</u>

Blank writing area with horizontal dashed lines for the first friend's introduction.

Blank writing area with horizontal dashed lines for the second friend's introduction.

Homework SHEET